

## マイマイガの発生に注意

昨年の夏、留萌、後志、上川地方などのいくつかの市街地でマイマイガが大量に飛来し、壁などに多数の卵のかたまりを産みつけました（写真-1）。今年の春5月には卵から黒い小さな幼虫がかえります。幼虫は暖かい日に糸をはいて風で飛び（写真-2）、家屋などに侵入する可能性があります。幼虫に強い毒はありませんが、人によっては触ると皮膚炎が起きます。また、店頭に並べた商品などに混入することがあります。卵をみつけたら取り除くとともに、5月に入ったら窓に網戸をして幼虫の侵入を防いでください。

カラマツ林やカンパ類など広葉樹林では6～7月にマイマイガの幼虫（写真-3）による葉の食害が予想されます。これら落葉樹は葉を食われても2週間ほどで新しい葉を回復するので枯れることはありません。しかし、葉を食われると樹木は一時的に衰弱するので、カラマツは幹に潜るカラマツヤツバキクイムシに加害されることがあります。このクイムシの加害により大量のカラマツが枯れた事例が知られています。マイマイガが多発した林分では間伐や枝打ちを控えてください。クイムシ類は切った木の臭いに誘引され集まるからです。やむを得ず間伐する場合は秋から冬に実施し、丸太は搬出してください。

（病虫科）



写真-1 マイマイガの成虫と卵のかたまり（茶色の綿状のもの）



写真-2 卵から孵化したばかりの幼虫（体長約5mm）



写真-3 マイマイガの成長した幼虫（体長22mm）